令和7年度9月補正予算(案)

主要事業の詳細

目次

〔 通常分 〕

政策局	1
健康福祉局	3
教育委員会事務局	5

〔 熊本地震10年関連分 〕

基本理念及び基本方針	7
政策局	9
文化市民局	12
経済観光局	14
農水局	17

主要事業の詳細　［政策局］

〔通常分〕

1. 災害復旧活動経費 新

（補正額）10,000千円
（所管課）危機管理課

○水防活動に必要な土のうの作製及び運搬等に要する経費

現状・課題

○令和7年8月の大雨により、市内各地で道路の冠水やがけ崩れ等の被害が発生。

○崩壊した斜面や護岸等の応急復旧や河川の氾濫による浸水の防止等を目的に、土のうを緊急的に補充する必要がある。

事業概要

○事業費：10,000千円

○事業内容
水防活動に必要な土のうの作製及び運搬等に要する経費【10,000千円】
崩壊した斜面や護岸等の応急復旧や河川の氾濫による浸水の防止等に必要となる、土のうの作製及び運搬に係る業務委託を行い、応急復旧に使用するほか、今後の災害に備える
≪積算内訳≫
・土のう作製及び運搬等業務委託：10,000千円

土のうの運搬・設置の様子

2. 新庁舎整備経費

（補正額）25,500千円 既計上額262,000千円
（所管課）庁舎建設課

○新庁舎整備に係る地質調査に要する経費

現状・課題

○新庁舎の基礎や構造体の検討（基本設計）を行うために、建設地における地盤特性の調査（地質調査）が必要であり、当該地質調査の実施に当たっては、地権者と協議の上、既存ビルの解体工事に支障のないよう行う必要がある。

○当該地質調査については、R8年度当初の実施を予定していたが、設計受託者との協議や既存ビルの解体スケジュールを踏まえた適切な時期に行う必要がある。

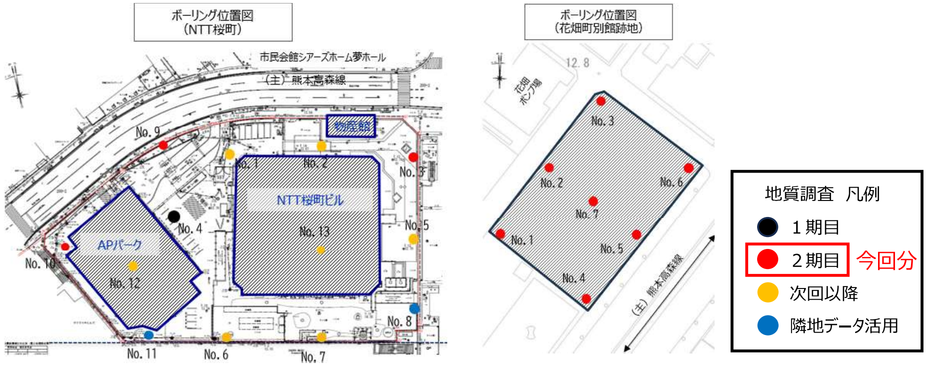
事業概要

○事業費：25,500千円

＜債務負担行為＞

事　項	期　間	限 度 額
新庁舎整備に伴う地質調査業務委託（第2期）	令和8年度	59,500

○事業内容
NTT桜町（3か所）及び花畑町別館跡地（7か所）の地質調査に必要な経費
（3割を前払分として歳出予算に計上）



○地質調査等スケジュール

※ 当該地質調査のうち第1期については、既存ビル躯体の本格的な解体工事が開始されると適切な位置（敷地中央付近）での調査が行えないため、R7年7月に先行実施したもの。残る箇所については、NTT桜町ビル解体工事の進捗を踏まえ、可能な限り早く調査を実施する。

主要事業の詳細　［健康福祉局］

〔通常分〕

1.（特）介護人材確保・定着促進事業 新

（補正額）12,370千円　既計上額0円
（所管課）介護保険課

○介護事業所と有償ボランティアのマッチング支援に要する経費

現状

○市内介護事業所等の人手不足解消及び高齢者の健康増進・社会参加の拡大を図るため、令和7年3月5日に株式会社プラスロボと連携協定を締結した。

○連携協定においては、市内介護事業所等及び幅広い世代の市民による有償ボランティア・マッチングサービス（スケッター）の活用を図ることとしており、令和7年6月から令和7年11月までを無償※トライアル期間として取組を開始している。

※マッチングサービスを利用する介護事業所のシステム利用料を無償とするもの

事業概要

○事業費：12,370千円

○事業内容

マッチング支援等の実施

・無償トライアル期間の終了後は、引き続き事業者の参入を促すため、令和8年3月までの期間について、利用料の助成を行う。

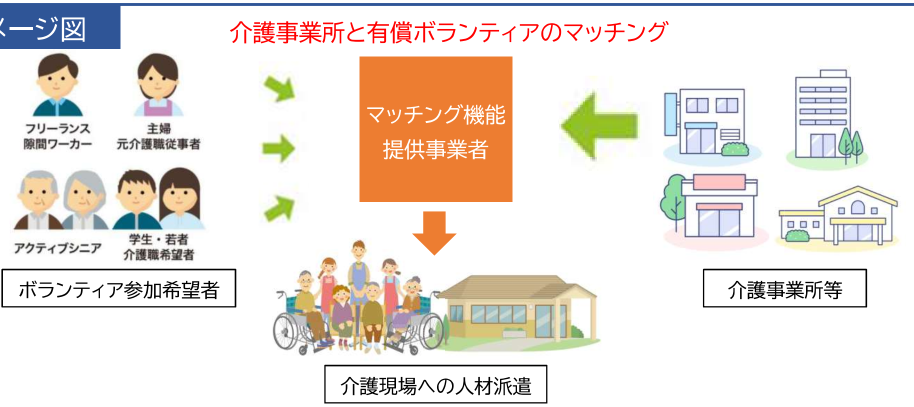
・介護現場の生産性向上や効率化のための介護事業所に対する支援（業務切り出し説明会、事業説明会、個別運用サポートなど）や、幅広い人材により介護を支える仕組みを構築するための市民向けの周知広報・説明会等を実施する。

・マッチングサービスにおける登録ボランティア数、依頼件数・内容、マッチング成立件数等の測定、参加事業所へのアンケート・ヒアリング調査、ボランティア参加者の満足度調査、好事例・課題事例の収集・分析等の効果検証等を実施する。

≪積算内訳≫

マッチング業務委託経費：12,370千円

イメージ図



2. 障がい児支援分野における ICT化推進事業 新

（補正額）18,800千円　既計上額 0円
（所管課）障がい福祉課

○障害児支援事業所等におけるICT導入支援に要する経費

現状・課題

○障害児支援事業所等では、支援記録の作成や職員間の情報共有において**紙媒体**が中心であり、業務が煩雑化するとともに情報伝達にも時間を要し、職員の業務負担が増加している。

○保護者への連絡も**紙媒体**が中心で、情報共有が一方向になりやすいため、保護者との円滑な双方向のコミュニケーションを可能とする体制づくりを支援する必要がある。

事業概要

○事業費：18,800千円

○事業内容

ICT導入に係る補助【18,800千円】

障害児支援事業所等の業務効率化による支援の質の向上及び職員の業務負担軽減を推進するため、障害児支援事業所等におけるICT導入に係る経費を補助する。

≪積算内訳≫

1事業所当たりの補助上限額：1,000千円

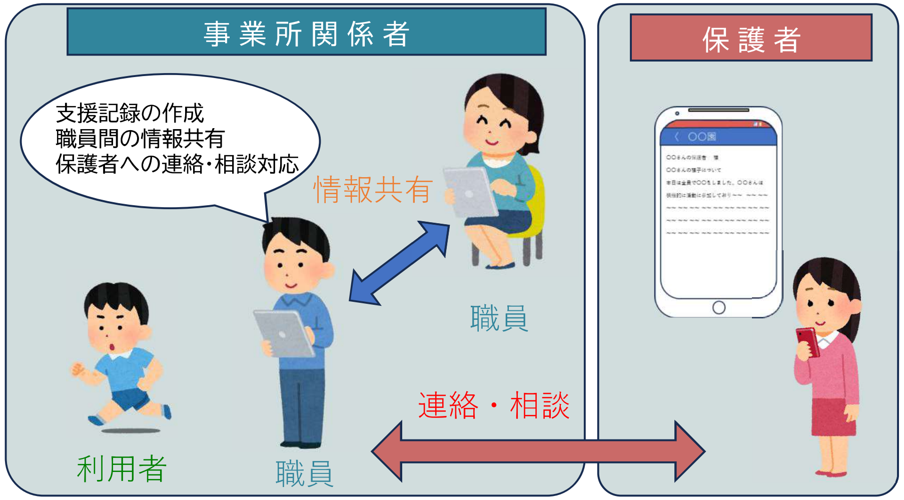
対象事業所数（見込み）：25事業所

※各事業所への所要額調査に基づく

≪補助対象経費≫

情報端末（タブレット端末・スマートフォン等ハードウェア、インカム）・ソフトウェア導入費等

イメージ図



主要事業の詳細　［教育委員会事務局］

〔通常分〕

1. 給食室等熱中症対策事業 拡

（補正額）2,540,000千円　既計上額5,000千円
（所管課）健康教育課

〇学校給食調理室に対する空調整備に要する経費

現状・課題

〇小・中学校の給食調理室の多くは、エアコン等の空調設備がなく、これまでもスポットクーラーの設置など様々な暑さ対策に取り組んできた。

〇今年は、例年になく早い梅雨明けもあり、連日猛暑が続いていることから、**こどもたちへの安全安心な給食の提供を継続していく**ため、空調設備のない**全ての調理室に空調を緊急的に整備**する必要がある。

事業概要

〇事業費：　2,540,000千円

〇事業内容
　空調設備の機材が調達できたところからすぐに整備にとりかかり、**夏休みの期間中に可能な限り整備**を実施。夏休み中に終わらなかった調理室についても、機材が入手でき次第、すみやかに着手する。

［空調が未整備の給食調理室　94場のうち］

（1）在庫の機材等ですぐに対応可能な30場（全て単独調理場）
- ➢ 8月中に30場全ての整備を完了し、2学期からの給食再開に間に合うよう実施

（2）残りの64場（単独調理場：52場、共同調理場：12場）
- ➢ 機材が入手でき次第、速やかに着手する。

≪積算内訳≫
- ・単独調理場：　1,640,000千円（20,000千円×82場）
- ・共同調理場：　　900,000千円（75,000千円×12場）

イメージ図

調理場イメージ

学校給食イメージ

主要事業の詳細　［基本理念及び基本方針］

〔熊本地震10年関連分〕

熊本地震10年関連事業の基本理念及び基本方針

＜基本理念＞

様々な人の「想い」や「記憶」をつなぎ、熊本地震の「教訓」、多くの支援への「感謝」を胸に、地域の「つながり」、「絆」を力として、安全・安心で災害に強くしなやかなまちを目指し、「未来」に向けてこれからも進み続ける「決意」を新たにする。

全体コンセプト（テーマ）：「支えられた日々を、支え合う力に。」

＜基本方針＞

最大の教訓は、

地域のつながり

犠牲になられた方々への**追悼と想いの継承**

- 犠牲になられた方々へ哀悼の意を表するとともに、ご遺族の悲しみに寄り添い、その想いを引き継ぐ。

復旧・復興の歩みの**振り返り**

- 改めてこれまでの復旧・復興の歩みを振り返り、市民の皆様と自助、共助、公助の取組と残された課題を共有する。

未来への教訓等の**伝承**

- 熊本地震の教訓を引き継ぎ、地域における防災力の更なる向上に取り組む。
- こどもたちをはじめ、熊本地震を経験していない方々や市外の方々にもその教訓等を伝えていく。

支援への**感謝**と**恩返し**

- 多くのご支援に対して、改めて感謝を伝え、復興した姿を伝える。
- 市民の皆様にも未来に向けて発展していく希望を感じてもらう。
- ノウハウを活かした他自治体の支援や、九州全体の防災力の更なる強化に向けて、リーダーシップを発揮していく。

安全・安心で災害に強くしなやかなまち

主要事業の詳細　［政策局］

〔熊本地震10年関連分〕

1. 熊本地震10年関連パンフレット作成経費 新

（補正額）2,000千円
（所管課）政策企画課

○熊本地震からの復旧・復興の歩みや10年関連事業の概要等を発信するパンフレット作成に要する経費

現状・課題

○熊本地震から10年の節目を迎えるにあたり、全国からの温かいご支援に対する感謝の意を表するとともに、更なる防災意識の醸成を図る必要がある。

○市民や全国の皆様に対し、これまでの復旧・復興の歩みや関連事業の全体コンセプト及び概要を広く発信するため、統一的な広報を実施する。

事業概要

○事業費：2,000千円

○事業内容
熊本地震10年関連パンフレット作成【2,000千円】
市民や全国の皆様に対し、これまでの復旧・復興の歩みや関連事業の全体コンセプト及び概要を広く発信するためのパンフレットを作成する。
≪積算内訳≫
・作成業務委託：2,000千円

イメージ

【参考】熊本地震5年　パンフレット

2.熊本地震10年普及・啓発経費 新

（補正額）2,600千円
（所管課）広報課

○熊本地震の記録映像制作のための映像等収集に要する経費

現状・課題

○熊本地震発災から時間が経過するとともに地震当時の記憶の風化が進んでいる。

○「発災時の被害状況や災害対応に特化した記録映像集」を制作し、様々な場面で活用することで、地震の記憶を喚起するとともに、地震を知らない世代に教訓を伝承していく。

事業概要

○事業費：2,600千円

○事業内容
熊本地震記録映像収集業務委託【2,600千円】
・記録映像集制作に向けて地震当時の映像を収集する。
・市民からも映像を募集することで、「市民参加型のプロジェクト」として市民が当時を振り返る機会を作るとともに、記録映像集を制作すること自体の周知も行う。
≪積算内訳≫
熊本地震記録映像収集プラットフォーム制作・運用業務：2,600千円

○スケジュール
・R8年3月まで　　地震当時の映像等を収集

熊本地震10年普及・啓発業務委託 新
（債務負担行為）

（期間）令和7年度～令和8年度
（限度額）15,000千円
（所管課）広報課

○熊本地震から10年の節目を県内外へ発信する広告掲載業務委託

事業概要

○事業費（債務負担行為限度額）：15,000千円（期間：令和7年度～令和8年度）

○事業内容
（1）全国に向けた感謝のメッセージの発信【11,500千円】
熊本地震から10年の節目を迎えるにあたり、改めて全国に向けて「これまでの支援に対する感謝」を伝えるため、交通広告やインターネット広告等を掲出する。
（2）市民に向けた感謝のメッセージの発信及び機運の醸成【3,500千円】
地震から10年に向けた機運を醸成するため、市内各所に交通広告等を掲出する。

○スケジュール
R8年3月～5月　全国向け・市内向け広告掲出

熊本市特別防災訓練業務委託 TKB48避難所訓練業務委託（債務負担行為）

新

（期　間）令和7年度～令和8年度
（限度額）23,200千円
（所管課）危機管理課

○実践的な防災訓練の実施に係る業務委託
○TKB48避難所訓練の実施に係る業務委託

現状・課題

○熊本地震から10年を迎えるにあたり、市民や防災関係機関の更なる防災意識の啓発や地震の記憶の風化の防止、熊本地震の記憶や教訓の継承が必要である。

○九州市長会防災部会等とも連携し、市内の複数箇所において、帰宅困難者支援、物資拠点の運営、捜索救助等の総合的な訓練を実施する。

○また、TKB48※避難所訓練を実施することで、避難所の環境改善を図る。
※災害時の避難所において、「T=トイレ、K=キッチン、B=ベッド」の3要素を発災から48時間以内に整備することを目指す避難所運営の指針

事業概要

○事業費（債務負担行為限度額）：23,200千円（令和7年度～令和8年度）
○事業内容
【熊本市特別防災訓練事業】
市内での特別防災訓練実施に要する経費【8,200千円】
≪積算内訳≫
・訓練計画、準備、当日実施に係る委託：8,200千円
【TKB48避難所訓練事業】
市内でのTKB48避難所訓練実施に要する経費【15,000千円】
≪積算内訳≫
・訓練計画、準備、当日実施に係る委託：15,000千円

熊本市特別防災訓練（イメージ）

自衛隊による入浴支援

埋没車両からの救出訓練

※令和7年度 九州市長会即応支援訓練の模様

TKB48避難所訓練（イメージ）

居住用シェルター

トイレコンテナ、シャワーコンテナ

キッチンカー

※他都市における訓練の模様
（TKB48避難所ではキッチンカーやトイレコンテナ等災害対応車両が避難所に集結し避難者を支援する。）

「熊本地震の日」周知啓発等業務委託（債務負担行為）

（期　間）令和7年度～令和8年度
（限度額）14,000千円
（所管課）危機管理課

○防災啓発イベントの開催等に係る業務委託

現状・課題

○令和7年1月実施の市民アンケートにおいて、約6割の市民が「熊本地震の記憶や教訓を忘れがちになっていると感じている」と回答しており、熊本地震の記憶が風化している実態が明らかとなった。

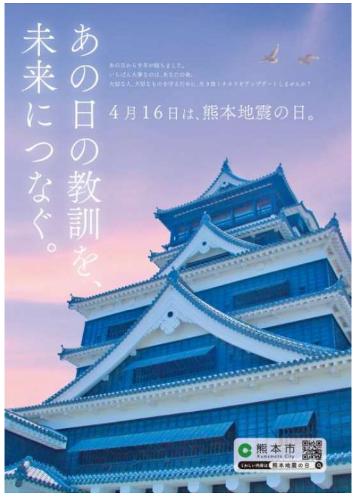
○熊本地震から10年を迎えるにあたり、市民や防災関係機関の更なる防災意識の向上と熊本地震の記憶や教訓の継承を行う必要がある。

事業概要

○事業費（債務負担行為限度額）：14,000千円（期間：令和7年度～令和8年度）
○事業内容
防災啓発イベント等に係る委託業務　【14,000千円】
　TKB48避難所訓練及び熊本市特別防災訓練と連携した防災啓発イベントの開催を通じて熊本地震からの10年で進化した防災力を市民に感じてもらい、防災意識の向上を図るとともに、熊本地震の記憶・記録・教訓を次世代へ継承する。
　4月16日の「熊本地震の日」についても、新聞、SNSなど各種媒体を通じて周知広報を行う。
≪積算内訳≫
・防災啓発イベント・広報経費：14,000千円

イメージ

【参考：防災パーク開催の様子（令和7年度）】



【参考：新聞広報（令和7年度）】

主要事業の詳細　［文化市民局］

〔熊本地震10年関連分〕

1. 熊本地震10年関連展覧会開催等経費 新

（予算額）4,000千円
（所管課）文化政策課

○*熊本地震発災時の記録等を用いた市民公募作品展覧会の開催に要する経費*

現状・課題

〇熊本地震から10年の節目を契機に、地震で甚大な被害を受け疲弊した多くの市民にとって、文化的処方（※）が心の復興に繋がったという当時のエピソードなどを振り返ることで、文化芸術の必要性をあらためて認識するとともに、その価値を広く発信する。
※文化的処方・・・アートなどの活用によって、健康やウェルビーイングを地域や社会ぐるみで促進すること。

事業概要

〇事業費：4,000千円（債務負担行為　令和7年度～令和8年度　限度額3,000千円）

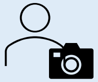
〇事業内容

（1）市民公募作品等による展覧会の開催【4,000千円】
震災時のエピソードや想いが詰まった市民の写真と、職員が持ち寄った心の防災グッズを展示する展覧会を開催する。
※会場：熊本市現代美術館、 会期：2026年3月末～6月、 監修：東京藝術大学

≪積算内訳≫
▸写真・エピソード募集業務委託：1,210千円
▸展覧会開催等業務委託：2,790千円（債務負担行為　1,429千円）

＜展覧会内容のイメージ＞

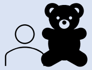
市民公募作品
市民から「地震×文化的処方」をテーマに写真とエピソードを募集



避難所にてダンボールベッドに住所を書くアートイベントがあった。
これを機に隣の人と交流が始まり殺伐とした雰囲気が少し和やかになった気がして、アートの力を感じた。

避難所にアーティストが来て歌を披露してくれたり一緒に歌ったりした。
こどもが笑顔になり、それを見た家族まで元気になった。
音楽の力で笑顔の輪が広がった。

職員研修：心の防災グッズ
非常時のために備えている「防災グッズ」は生命維持のための最小限のもの。
では、**心を維持するために**避難所に何か1つ持って行くなら何を持って行きますか？



幼い頃から使ってるくまのぬいぐるみ。
これがあると安心して眠ることができる！

離れて住むこども達の写真を見ると心が落ち着く、希望を持てる

いつも音楽に心を癒されている。
〇〇という曲を聞くと頑張ろうと思える。

（2）熊本地震と熊本版文化的処方に関するシンポジウムの開催
被災者の心の復興につながった熊本地震時の文化芸術を介した事例や本市が取り組む文化的処方について紹介するシンポジウムを開催する。
≪積算内訳≫
▸シンポジウム開催準備等業務委託：（債務負担行為　571千円）

（3）地震10年関連の取組を振り返る記録集の作成
展覧会、シンポジウム及び、熊本市での文化的処方の取組内容をまとめた冊子を作成する。
≪積算内訳≫
▸記録集制作業務委託：（債務負担行為　1,000千円）

主要事業の詳細　［経済観光局］

〔熊本地震10年関連分〕

1. 熊本地震10年復興イベント開催事業 新

（補正額）50,000千円
（所管課）誘致戦略課

○熊本地震からの復興を発信するイベント開催に要する経費

現状・課題

○熊本地震から10年が経過し、復興が進む一方、記憶の風化や地震を知らない世代が増えている。

○文化や芸術、エンターテインメントの力を活用し、地震の記憶を風化させず、防災の重要性を未来へ繋ぐイベントとして、発災から歩んできた道のりとその姿を発信する。

○また、イベントを通じてこれまでの支援への感謝を伝えるとともに、他の被災地へエールを送る。

事業概要

○事業費：50,000千円　※実行委員会への負担金

○事業内容　※具体的な事業内容については、実行委員会において決定する。

（1）くまもと復興映画祭
・熊本地震からの復興を目的に毎年行われている映画祭を開催する。
・10年の節目にあわせた作品の上映や、監督や俳優によるトークセッションに加え、レッドカーペットやオープニングアクトを実施する。

＜くまもと復興映画祭＞

（2）復興コンサート等
・「未来へのシンボル」となるメインパーソナリティを起用のうえ、熊本ゆかりのアーティストなどによる復興コンサートを開催し、全国へ向け復興した姿を発信する。
・あわせて、熊本城ホールや花畑広場で、防災啓発に関するイベントを展開する。

＜イメージ（復興コンサート）＞

（3）地域活性イベント・民間連携イベント
・熊本地震で被災した地域の物産品の販売や、地域住民が参画できるイベントを開催する。
・メインパーソナリティが民間イベントへ参加し、取材等を通じて地震の教訓を伝える。

（4）広報
・メインパーソナリティを中心に、県内のテレビ・新聞・ラジオ等及びSNS等を活用し、メディアを通じた効果的な広報活動を実施する。

○イベント実施期間：令和8年の秋頃を中心に実施

○メイン会場（案）：熊本城ホール、花畑広場、二の丸広場

○実施体制：実行委員会を設立し、民間等のノウハウを活用しながら実施する。

熊本城REVIVAL2026 開催業務委託（債務負担行為） 新

（期　間）令和7年度～令和8年度
（限度額）55,000千円
（所管課）観光政策課

○熊本城を中心とした年間を通した復興イベントの開催等に係る業務委託

現状・課題

○熊本地震発災後、本市では震災復興計画を策定し、5つの復興重点プロジェクトのひとつとして、くまもとのシンボルである熊本城の復旧に取り組んできた。

○震災から10年を迎えるにあたり、これまで多くの市民が総力をあげて取り組んできた活動や国内外からの様々な支援を振り返り、感謝を伝えるとともに、完全復旧に向け引き続き協力・応援をお願いし、今後の記憶の風化防止を図る必要がある。

事業概要

熊本地震から10年の節目に本市の復旧・復興を振り返り、これまでの様々な支援への感謝を伝えるため、熊本城及び周辺地域において一年を通じた四季ごとのイベントを関係部署、民間事業者等と連携し開催することにより、防災意識の醸成や記憶・記録の風化防止を図る。

○事業費（債務負担行為限度額）：55,000千円（期間：令和7年度～令和8年度）
※冬のイベント開催経費は令和8年度当初予算への計上を今後検討

○事業内容
【春】開催時期：令和8年4月～5月頃
会　　場：熊本城有料区域内
内　　容：10年の復旧の記録をパネルやモニターで紹介する企画展など
【夏】開催時期：令和8年8月頃
会　　場：熊本城有料区域内
内　　容：「静寂」をイメージした音と石垣のライトアップによる夜間開園など
【秋】開催時期：令和8年10月頃
会　　場：花畑広場ほか
内　　容：城下町の飲食物販を集合させた催事など
※県内の被災自治体との共催。能登半島応援事業も実施

イメージ図

【春】

【夏】

【秋】

(特)熊本競輪場防災体験イベント開催業務委託(債務負担行為)

新

(期　間)令和7年度～令和8年度
(限度額)5,000千円
(所管課)競輪事務所

○車中泊体験などの防災体験イベント開催に係る業務委託

現状・課題

○熊本競輪場駐車場が令和8年1月に完成(予定)であり、大規模災害時に「車中泊避難場所」として駐車場を開放することを地域住民へ周知し、日頃の災害への備えと防災意識の醸成を図る必要がある。

事業概要

○事業費(債務負担行為限度額):5,000千円(期間:令和7年度～令和8年度)

○事業内容
「グランドオープンした熊本競輪場で車中泊を体験しよう」をコンセプトとし、以下のイベントを開催することで、防災意識を向上させるとともに、誰もが気軽に訪れたくなる「地域に愛される施設」としての熊本競輪場の姿を発信し、継続的な来場促進と地域活性化につなげる。
開催時期は令和8年4月～5月頃で調整中。
(1)車中泊体験
夕方から翌朝にかけて実施予定。参加者は200名(車両50台)を想定
(2)安全安心な車中泊講習
エコノミークラス症候群の予防等をテーマとした講習を実施
(3)競輪場の復旧復興の記録
復旧、復興を振り返るパネル展示等を実施
(4)車中泊仕様の乗用車展示
車中泊に適したシートアレンジや、アイテム活用の具体例を紹介
(5)各種体験イベント
災害用トイレ体験、非常食試食体験、災害対応車両展示、バンク試走体験　など

イメージ図

＜令和6年6月に復旧したメインスタンド＞

＜駐車場完成イメージ＞

主要事業の詳細　［農水局］

〔熊本地震10年関連分〕

熊本地震10年復興マルシェ開催経費（債務負担行為）　新

（期　間）令和7年度～令和8年度
（限度額）5,000千円
（所管課）農業政策課農水ブランド戦略室

○熊本地震から復興を遂げた農水産業を市民や全国の消費者へPRするためのイベント等の開催に係る経費

現状・課題

○熊本地震以降10年間、熊本市の農水産業は全国からの支援と生産者等の努力により着実に復興を遂げてきた。

○このようなことから、市民や全国の消費者へ向けて、支援への感謝を示し、復興した姿をPRするイベントを開催する。

事業概要

○事業費（債務負担行為限度額）：5,000千円（期間：令和7年度～令和8年度）

○事業内容

　熊本地震から10年を迎える節目にあたり、復興への感謝を込めたマルシェ等を開催し、復興した農水産業の今の姿を伝えるとともに、熊本の農水産品の魅力を市民や全国の消費者に向けPRしていく。

（1）復興マルシェの開催

・被災した生産者が感謝と復興した姿を直接伝える場として、復興マルシェを開催。
・震災時と復興後の姿をパネル展示するとともに、これら復興を果たした生産者が新鮮な農水産物等を市民に販売。

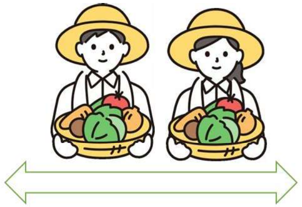
（2）ECサイト上での復興感謝イベントの実施

・全国の消費者に向けて、ECサイト上にて復興感謝イベントを実施。
・サイト上に特設ページを作成し、熊本地震による被災と復興について振り返るとともに、熊本の農水産物の魅力を発信。
※集客力のある既存のECモール上に特設ページを作成することを想定。

イメージ図

地元への感謝を

復興マルシェ



同時開催（連動企画）

全国への感謝を

復興感謝イベント